思いをつなぐ人生会議
～絆の写真展～

曽於医師会立病院では、あなたの思いを伝え、大切な人の想いに耳を傾けるきっかけとして、「あなたの家族・大切な人との絆」をテーマに、絆の写真展を開催しています。

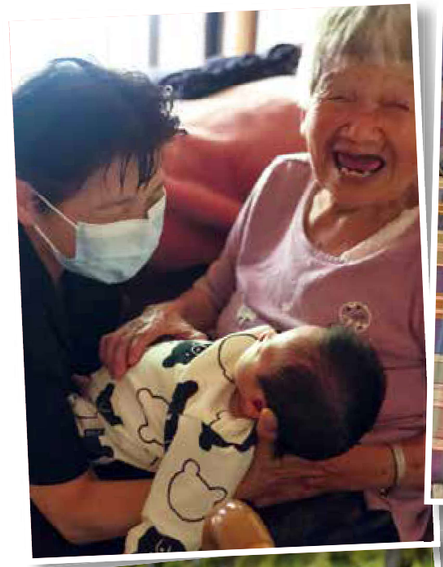
曽於医師会立病院で、12月6日（日）までの展示した後、曽於市、大崎町、志布志市を巡回する予定です。

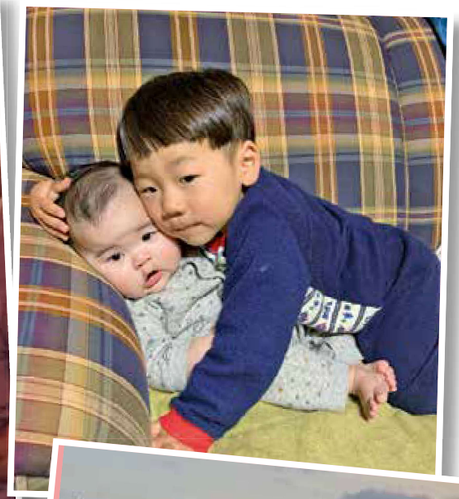
色々な方の思いが詰まった、大切な人との一枚を見ながら、自分の人生についても考えてみませんか。

■問い合わせ先

● 曽於医師会立病院　地域連携室
TEL 099-482-4888

▼ホームページ











絆の写真展の担当者に話を聞いてきました

・絆の写真展を開催した経緯について

人生会議の普及啓発活動として、外来でのアンケート実施や「もしも手帳」の作成に取り組んできましたが、人生会議はまだ身近なものとは言えないと感じていました。そこで、写真を探したり撮影したりする過程を通して、大切な人とのつながりや思い出を振り返り、人生について考えるきっかけになればとの思いから、「絆の写真展」を開催しました。

・絆の写真展を通して市民に伝えたいことは？

「人生会議」と聞くと、病気になったときや人生の最終段階について話し合う、少し重たいものというイメージを持つ人もいるかもしれません。しかし、人生会議は特別なものではなく、自分にとって大切な人や、これからどのように過ごしていきたいかを考えることから始まります。写真を見ながら「あのときは楽しかったね」「これからもこんな時間を過ごしたいね」と語り合う何気ない会話も、人生会議の大切な一歩です。元気なうちから自分の思いや大切にしたいことを身近な人と共有し、これからの人生について話し合うきっかけにしていただければと思います。

▼曽於医師会立病院
医療ソーシャルワーカー
野村　美智子さん



訪問診療について話を聞いてきました

訪問診療は、通院が困難な方などのご自宅を定期的に訪問して診療を行うものです。当院では、主にがん患者さんを対象に、住み慣れた自宅で過ごしたいという希望を支えています。当院を受診したことのない方でも、事前に面談を行った上で利用することができます。また、在宅療養中に体調が悪化した場合には必要に応じて入院を受け入れ、回復後は再び自宅での療養へ戻ることも可能です。

これまで多くの患者さんと関わる中で、入院から在宅療養に切り替えたことで表情が明るくなり、笑顔が増えた方を数多く見てきました。自宅療養は家族の負担もありますが、「最期に家族と濃い時間を過ごすことができてよかった」と感謝の言葉をいただくこともあります。

自宅で最期を迎えることに不安を感じる方も多いと思います。そうした不安を少しでも軽減できるよう、当院では患者さんやご家族の思いを大切にしながら、訪問看護ステーションなど地域の関係機関と連携し、多職種で協力しながら在宅療養を支えています。大切なのは、元気なうちから、自分がどこで、どのように過ごしたいかを考え、家族や大切な人と話し合っておくことです。在宅医療も選択肢の一つとして知っていただき、自分らしい生き方について考えるきっかけにしていただければと思います。

▼曽於医師会立病院
院長　吉留　伸郎さん

